

令和3年度 第2回 社会福祉士養成科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和4年3月29日（火）15：00～16：30

場所：zoom 形式

◆参加者名

委員 藤井 亘 （東京都自立支援協議会 委員）

委員 小田 智雄 （社会福祉法人やまて福社会 理事）

委員 佐藤 初美 （NPO 法人 10 代・20 代のにんしん SOS 新宿 理事長）

教員 秋山 雅代 （社会福祉士養成学科 学科長）

教員 片桐 正善 （社会福祉士養成科 科長）

職員 萬崎 保志 （教務課次長）

職員 松木 健太 （教務課）

1. 第1回教育委員会振り返り及び実施報告

（参考：第1回まとめ）

- ・ソーシャルワーク実践研究会は今年度いっぱいオンラインを活用した運営を継続し、効果測定を行っていく。また告知方法については継続的に検討しながら進めていく。
- ・入学前説明会には教職員が介入せず、入学検討者と在校生や卒業生とざっくばらんに話ができる機会を企画する。ただし、コロナウイルスの感染状況も落ち着きを見せない為、今年度どこまで対応できるかは未定。状況を見ながら検討を進めていく。

2. 検討事項（オープン講座の見直しについて）

片桐教員）

本校ではソーシャルワーカーとして、福祉人材として広く知見を学んでほしいという考えのもと、福祉にまつわる様々な分野、問題について学んでいくオープン講座を実施している。オープン講座は単位認定にはかかわらない、任意参加の講座となっており、学生の興味を持つ内容の講座にここ1、2年でブラッシュアップしてきている。

オープン講座の簡単なシラバスをご確認いただき、さらに価値のある講座とできるようご意見をいただきたい。

※参考資料：2021年度オープン講座レジュメ

秋山教員）

このオープン講座は特定の学科だけが対象ではなく、全学生が自由に参加可能となっ

ている。そのため、社会福祉士の学科だけでなく、介護福祉学科の学生なども参加している。

松木職員)

今年度のプログラムはすでに確定しているため、今回いただくご意見は、令和 5 年度のプログラムとして当該講座の運営委員会と調整を行っていく予定。

小田委員)

オープン講座の取り組みは机上の知識だけでなく、その先を見ることができるものだと思う。学生たちにとってもこの取り組みは素晴らしいものだと感じた。

最近では外国籍の方の相談なども増えてきているし、困窮貧困などものテーマもよいと思う。現行で行われているテーマもどれも欠かせないテーマだと感じる。

佐藤委員)

テーマとしては大事なことが網羅されていると感じる。

私たちの法人で相談を受けている 12~20 代前半の方を見て感じるのはデート DV・ヤングケアラーなどの知識を学ぶのと合わせて、学生自身が学び自分を守るというために、開催時期については、夏休み前など連休に入る前にこういったテーマがあると良いように感じる。夏休みなどはこういった相談も増える時期。

藤井委員)

とても細かく設定されていると感じた。東京都自立支援協議会はこちら数年のテーマを当事者の参加や当事者の主体に重きを置いている。障害の分野を見てみると、おそらく当事者からの声を聞くという機会を設けていたように感じ、当事者たちの活躍の場もあるのかなと感じた。

片桐教員)

外国籍の話は現場ならではだと感じた。学生の中でも外国籍問題に興味関心を持つ学生も増加している。授業ではなかなか展開しづらいので、どなたか講師をお招きし、学ぶ機会を作ることはやらなければいけないと感じた。

本校全体でみると高卒の学生も含まれるため夏前に実施するというのは良い案だと感じる。実際に若い学生が多く集まる学科では学科単位で行っているかもしれないが、オープン講座と連携し実施することも可能だと感じる。

障害関係では当事者を呼ぶことが前提になってきているようであれば、養成校としても積極的に検討する必要があるだろうと感じシラバスを作成していた。しかし、今年度はコロナウイルス感染拡大の影響もあり、学校にお呼びすることは控えることにな

った。ただ当事者をお招きし、お話いただくという機会は継続的に行き、実績として文章としても残せるような形としてやっていきたいと感じた。

秋山教員)

ソーシャルワーカーとして、ソーシャルワークの視点を持った介護福祉士として働くためには、多職種連携・協働が大切になってくると思っている。

その為に多職種連携教育を取り入れたいと思っているが、カリキュラムの中ではその課程を学ぶだけで精一杯となっている。そういった意味ではこのオープン講座は有効的だと感じている。

今後、多職種連携・協働といった視点で考えたときに、『どのような連携先』『どのようなゲスト』『時期』などもアイデアをいただきたい。

小田委員)

現場に入ると多職種連携・協働が滞ってしまうと、支援がうまく進まない状況がある。複数の課題を抱えている方の支援は特に難しくなる。支援がうまくいかず、自分を責めてしまう方もいるため、多職種連携を行い、周りのサポートを受け支援を進めるというのは非常に重要なことだと感じる。

まずは『行政機関の中にはこういった窓口があるよ』という紹介をしていく。その中で、できれば窓口を担当しているような方に、ゲストとしてお話していただけるようであれば、在学中からそういう視点を学ぶこともできるかなと感じる。

時期については国家試験後など社会に出る前に時間が取れるのであれば、そういう時間に実施するのは良いかと思う。

佐藤委員)

今、行政がどこまで受け入れてくれるか分からないが、以前実習の中で、要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議を傍聴させてほしいという大学があった。そういったところに参加できるのであれば、学べる事も多いかと思う。

秋山教員)

実習の際、タイミングが合えば参加させてほしいということを教員から依頼していくことも大事だと感じた。

藤井委員)

複数の事業所を利用しているケースが多いので、それぞれの事業所とつながらないとどうしても支援ができないのが現状だと思う。10 年ほど前、埼玉の東松山（比企）で多職種連携をするためのネットワークが作られていた。専門職連携を行う地域が広がっ

ていると思うので、専門職連携を実践されている法人を見つけ、実習へ行くことも手段の一つかなと感じる。

片桐教員)

ある程度のコネクションがあったうえで、成り立つこともあると思うので、どこまで実践できるか分からないが、何か工夫をし、多職種の入り口を伝えられたらと思う。

また教務推進委員会に議題を出し、委員会での進捗に関しては進展があり次第、共有をさせていただく。

3.まとめ

・次年度検討事項のテーマは、オープン講座の改変。より実践的な知識や考えを取得するべく、学内担当機関となっている教務推進委員会と連携を取り、オープン講座のテーマ、講師、時期などについて検討を進めていく。

以上

※参考資料：2021 年度オープン講座レジュメ

2021 年度 オープン講座

講座Ⅰ：福祉業界を知る

『多職種連携』この言葉を耳にした方は多いのではないかと思います。これから皆さんが目指していく福祉業界を理解し、そして活躍していくために、幅広い知見を持つことが必要です。そのため、この講座を通して、皆さんが現在目指している分野のみでなく、福祉業界全体の理解を高め、就職や卒業後の業務に活かしていただければと思います。

開講プログラム

日程	テーマ	回数	担当教員
4 月 15 日（木）	福祉保健行政	1 回	根本先生
4 月 23 日（金）	高齢分野	1 回	秋山先生
5 月 12 日（水）	障害分野	1 回	片桐先生
5 月 19 日（水）	施設で働く	1 回	小泉先生
5 月 26 日（水）	医療分野	1 回	岡崎先生
6 月 2 日（水）	介護福祉分野	1 回	細野先生

※上記日程／回数は変更になる場合があります。変更の際は掲示にてお知らせいたします。

講座Ⅱ：福祉の現状を学ぶ

国家試験の受験勉強だけでなく、実際の現場に出たときに活きる学びを目的とした講座です。各内容の理解を深めるだけでなく、卒業後を意識し、学びを進めていただければと思います。

開講プログラム

日程	テーマ	回数	担当教員
6 月 11 日（金） 6 月 18 日（金）	児童	2 回	秋山先生
6 月 23 日（水） 6 月 30 日（水）	依存症	2 回	岡崎先生
9 月 29 日（水） 10 月 6 日（水）	障害	2 回	片桐先生
10 月 15 日（金） 10 月 22 日（金）	ジェンダー	2 回	原先生
10 月 28 日（木） 11 月 4 日（木）	ヤングケアラー	2 回	板倉先生
11 月 10 日（水） 11 月 17 日（水）	高齢・介護	2 回	細野先生

※上記日程／回数は変更になる場合があります。変更の際は掲示にてお知らせいたします。

◆◆◆ 講座Ⅰ：福祉業界を知る ◆◆◆

開催日程:4月15日(木) 16:30～18:00

テーマ:【保健福祉行政】公務員を目指している方へ「福祉保健行政で求められる人間像」

担当:根本 典子

～概要～

福祉の専門職は、福祉関係の事業所から一般企業のみならず、地方自治体でも求められており、福祉専門職の活躍の場が大きく拡大しています。その分野は、福祉分野と保健分野等で求められており、人材採用については、各自治体で様々な工夫をこらした採用試験を実施しています。各自治体では、どのような人材を求めているのでしょうか？そして、試験に合格し採用された場合は、どのような部署に配属されるのでしょうか？そのような内容で、ご紹介をしたいと思います。

開催日程:4月23日(金) 16:30～18:00

テーマ:【高齢分野】

担当:秋山 雅代

～概要～

2000年以降、医療と介護の連携の重要性がうたわれて久しい。今後も、住み慣れた地域での生活を継続するために、多職種間の連携はますます重要になってくる。

高齢分野において求められる専門性について、今回の介護報酬改定や多職種連携の視点を含めて、事例をもとに皆さまと一緒に検討したい。

開催日程:5月12日(水) 16:30～18:00

テーマ:【障害分野】NPOと障害をつなぐもの

担当:片桐 正善

～概要～

非営利組織が公的に障害者支援を行えるようになって約20年経つ。

NPOなる企業体からズレた者が集いし場で、社会からのズレを強調される「障害」者とともに、社会福祉の名の下に何を行ってきたのか。

20年の支援の積み重ねを経た「当事者」として、皆さんと再検討したい。

開催日程:5月19日(水) 16:30～18:00

テーマ:【施設で働く】元施設長からみた必要な人材とは

担当:小泉 浩一

～概要～

皆さんは、社会福祉士や精神保健福祉士等の資格を取り、福祉や医療の現場で働くことを希望されていることと思います。ついては福祉や医療の現場で働くにあたり、こういった人材が必要とされているかを知り、就職活動等において適切なアピールができることを目指します。具体的には、東京都の社会福祉施設に対して実施されたアンケートを材料に、「必要な人材」について学びます。また、講師の経験を踏まえ、「必要な人材」になるための心構えについても考えたいと思います。

開催日程:5 月 26 日(水) 16:30～18:00

テーマ:【医療分野】

担当:岡崎 直人

～概要～

社会福祉士・精神保健福祉士の就職先の一つである医療業界について、全般的に説明します。まず組織としての医療機関について説明を行い、主にソーシャルワーカーの業務について受診相談から退院・退院後の支援の流れに沿って説明します。機関内の多職種連携や機関買いの地域機関との連携についても解説します。講師の経験上、精神科医療が中心となります。

開催日程:6 月 2 日(水) 16:30～18:00

テーマ:【介護福祉分野】高齢者介護サービスと介護福祉士の役割

担当:細野 真代

～概要～

高齢者にとって一番近い存在でもある介護福祉士。社会では、介護の仕事は誰にでもできる単純労働と受けとられていることも多い。しかし実際には、介護は複雑で知識を要する仕事である。そんな介護福祉士の役割と専門性を知っていただくことで、将来の多職種連携にむけてのヒントとなればと考えています。また、現在介護保険で利用できる介護サービスについても解説していきたいと思います。

◆◆◆ 講座Ⅱ：福祉の現状を学ぶ ◆◆◆

<児童>

開催日程:6月11日(金) 16:30~18:00

講義テーマ①:社会的養護の現状

担当:秋山 雅代

社会的養護の現状と課題について、映像などを織り込みながら皆さまと理解を深めていきたい。

開催日程:6月18日(金) 16:30~18:00

講義テーマ②:児童養護施設について

担当:秋山 雅代

児童養護施設の現状とこれから求められる課題について、事例を織り込みながら皆さまと検討し理解を深めていきます。

<依存症>

開催日程:6月23日(水) 16:30~18:00

講義テーマ①:依存症の歴史

担当:岡崎 直人

依存症の歴史について学びます。主に近代アメリカのアルコール問題が禁酒法(1920年)に至り、その後どのように展開したのか。また日本のアルコール問題が第2次大戦後にどのようなであり、どのような対策が採られてきたのか、現在どのような状況にあるのかについて解説します。

開催日程:6月30日(水) 16:30~18:00

講義テーマ②:依存症問題へのアプローチ

担当:岡崎 直人

依存症問題を持つ本人・家族にどのような支援を行ったらよいのかについて、アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症を中心に説明します。また、依存症領域で用いられる動機づけ面接やCRAFT(家族への支援法)についても簡単に解説します。

<障害>

開催日程:9月29日(水) 16:30~18:00

講義テーマ①:障害からの「発達」再考

担当:片桐 正善

「ズレ」そのものを肯定できる、そんな新たな見方として「障害」をとらえたい。その一例として、知的障害を「発達の遅れ」として再定義したうえで、「遅れ」にゆっくり寄り添う支援から、改めて人の「発達」について、皆さんと再検討したい。

開催日程:10月6日(水) 16:30～18:00

講義テーマ②:軽度と名指される人が『働く』こと

担当:片桐 正善

地域で生きるモデルの1事例として、私と10年ほど支援関係にある、軽度の知的障害者と名指される方に就労に関する話をうかがう。

そこから、そもそもなぜ私たちは「働く」のか、皆さんと再検討したい。

<ジェンダー>

開催日程:10月15日(金) 16:30～18:00

講義テーマ①:セクシュアル・マイノリティとは

担当:原 葉子

「セクシュアル・マイノリティ」とは、一般的とされる性のあり方ではない状態や人を総称している言葉です。この授業では、その広い概念を整理し、歴史や現代社会における位置づけを検討しながら、潜在する問題への理解を目指します。

開催日程:10月22日(金) 16:30～18:00

講義テーマ①:デートDVはなぜおこる

担当:原 葉子

交際相手からの暴力の問題は、ここ数年の間に急速に注目されるようになりました。親密な関係性における暴力の実態を知るとともに、それらがどのような構造のもとで起こるのかを考えます。

<ヤングケアラー>

ヤングケアラーの視点から ～生きづらさの援助とは～

近年「ヤングケアラー (YC)」という表現が聞かれるようになりました。

新しい言葉でありながら、一方でアディクションの現場では以前から子ども時代を機能不全家庭の中で生き抜いて来た人たちが抱える生きづらさが「アダルトチルドレン(AC)」として表現されていました。アディクションの現場経験を踏まえて、その生きづらさはどのようなものなのか、どのようにソーシャルワークの課題としてとらえたらよいのかを一緒に考えていきます。

開催日程:10月28日(木) 16:30～18:00

テーマ①: 家族の機能不全と生きづらさ ヤングケアラーとは

担当:板倉 康広

家族の機能不全とはどういうものか。そして子どもはどのような生活体験をし、どのような影響を受けるのか。福祉現場においてどのような形で課題として現れるのか。援助職の視点からどのように理解をしていくことが必要かを一緒に考えていきます。

開催日程:11 月 4 日(木) 16:30～18:00

講義テーマ②:ヤングケアラーのリカバリーと予防支援

担当:板倉 康広

ヤングケアラーの問題は、ヤングケアラーとして生きて大人になった今何かしらの生きづらさを抱えているという課題、そして今ヤングケアラーとして生きている子ども世代の課題の二つの視点が考えられます。それぞれにおいて、援助職としてどのような援助を行う必要があるのか、実際どのような取り組みがあるのか、事例を紹介しつつ一緒に考えていきます。

<高齢・介護>

開催日程:11 月 10 日(水) 16:30～18:00

テーマ①:介護を必要とする高齢者の暮らしと地域で支えるための多職種連携

担当:細野 真代

少子化や核家族化、高齢化などが相まって一人暮らしの高齢者が増加傾向にあります。一人暮らし高齢者が地域で生活するためには、どのようなサービスを活用できるのか。どのような専門職との連携が必要なのか。一人暮らしの高齢者が抱える不安と課題を皆さんと考えていきたいと思います。

開催日程:11 月 17 日(水) 16:30～18:00

テーマ②:高齢者一人暮らしの限界とは

担当:細野 真代

地域で暮らす高齢者の事例として、一人の高齢者の生活状況を紹介します。事例をもとに「一人暮らし高齢者の独居生活の限界」について援助職としてどのように捉えていくのか。高齢者のニーズを叶えるためにどのような生活スタイルの可能性があるのか、在宅で最期を迎えるためにはどのような準備が必要なのかを皆さんと考えていきたいと思います。